

映像作家 水尻自子と漆彫刻家 青木千絵による新作を公開

Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展

第3期：2022年1月22日(土) - 5月29日(日) 十和田市現代美術館



青木千絵《BODY18-2》2018年 撮影：池田ひらく

十和田市現代美術館では、Arts Towada 十周年を記念した全3期にわたる展覧会「インター+プレイ」展を開催しています。その最後を飾る第3期【会期：2022年1月22日(土) - 5月29日(日)】では、青森県十和田市出身の映像作家 水尻自子と漆彫刻家 青木千絵の作品を展示します。

水尻自子のアニメーション作品は、鑑賞者の触感や痛覚を刺激し、まるで視覚で物に触れているような感覚を呼び起こします。本展の作品はミュージシャンの本田ゆかが音楽を担当し、十和田のために制作された新作です。一方、漆を用いた青木千絵の彫刻作品は、身体をモチーフにし、体の内側に溜まった感情が外側の身体へと現れ、覆い尽くすような造形です。身体を覆う幾重にも重ねた漆の鏡面には、奥にのみこまれるような深みがあり、鑑賞者を作品の内側に惹き寄せます。展覧会では新作と旧作を組み合わせで展示します。

第3期では、身体の内と外を越境し、他者と感覚を共有していく映像や彫刻作品が中心となります。美術館とまち、人と自然との関係から考え始めた相互作用(インタープレイ)という展覧会のテーマを、身体感覚の領域にも広げていきます。

なお、第2期のトマス・サラセーノの展示の一部や、通年展示の鈴木康広《はじまりの果実》、目[mé]《space》は、引き続き展示し、問題行動トリオによるパフォーマンスも会期中に開催します。

- 第3期出展作家・・・水尻 自子、青木 千絵、トマス・サラセーノ
- 全期・・・・・・・・鈴木 康広 [十和田市現代美術館 前庭に展示]、目[mé] [まちなかに展示]
- パフォーマンス・・・問題行動トリオ(野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理)

第3期の見どころ

1. 2021年カンヌ映画祭「監督週間」で上映された十和田市出身の映像作家 水尻自子の新作を日本初公開
2. 漆彫刻家 青木千絵の代表作《BODY》シリーズの新作と旧作を公開

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【見どころ】

1. 2021年カンヌ国際映画祭「監督週間」で上映された十和田市出身の映像作家 水尻自子の新作を日本初公開

水尻自子は、淡い色合いを用い、柔らかい線の手描きのアニメーションが特徴的な映像作家です。本展が日本初公開の《不安な体》では、身の回りにあるオブジェの感触を描くことで、観る人の記憶にある体験を呼び起こし、鑑賞者の身体にシンクロするだけでなく、侵食してゆくような映像を作り出しました。また、ミュージシャンの本田ゆかの音楽は、アニメーションの動きにぴったりと呼応し、聴覚からも鑑賞者の感度を高める効果を生み出します。

2. 青木千絵の代表作《BODY》シリーズの新作と旧作を展示

漆彫刻家の青木千絵は、金沢美術工芸大学で漆と出会い、その深い色や艶に魅了されるとともに、自然からひきだされた素材に生命力や人をひきこむ力を感じたと言います。青木は乾漆技法を用いながら、自分と他者との関係性や、自分自身の外（身体）と内（精神）などをテーマに、漆による新しい表現形式を生み出しています。本展では《BODY17-1》《BODY18-2》、十和田のために制作された新作《BODY21-3》が展示され、いずれも身体と精神が融和し衝突し合う様子を表現し、見る者の身体感覚を拡張していきます。

【第3期 出展作家】

水尻 自子（みずしり・よりこ）



映像作家。1984年青森県十和田市生まれ。体の一部や身近な物体をモチーフにした触覚的なアニメーションを制作する。文化庁メディア芸術祭アニメーション部門 新人賞、ベルリン国際映画祭 短編コンペティション正式出品など、国内外の映画祭で上映・受賞多数。本展出展作品《不安な体》が第74回カンヌ国際映画祭「監督週間」に選出。オタワ国際アニメーション映画祭では最優秀ノンナラティブ作品、ファンタジー国際アニメーション映画祭ではベスト・サウンド賞など、国際映画祭での受賞が続いている。

出展作品《不安な体》Miyu Productions(フランス)とニューディアー(日本)の国際共同製作体制で作られた。



水尻 自子《不安な体》2021年
©MIYU Productions, New Deer, Yoriko Mizushiri

青木 千絵（あおき・ちえ）



漆彫刻家。1981年岐阜県生まれ。金沢美術工芸大学大学院博士課程修了。現在、同大学助教。漆の持つ深い艶から創造への意欲を掻き立てられ、人間の存在をテーマに作品制作を始める。人体と抽象形態が融合した独特のフォルムを追究している。主な展覧会に「ヒトのカタチ、彫刻」（静岡市美術館、2014）、「Hard Bodies: Contemporary Japanese Lacquer Sculpture」（ミネアポリス美術館、アメリカ、2017）ほか国内外の展覧会に多数参加。2019 金沢・世界工芸コンペティション 優秀賞受賞。

青木千絵《BODY21-3》2021年
撮影：今村裕司
画像提供：現代美術 舁居

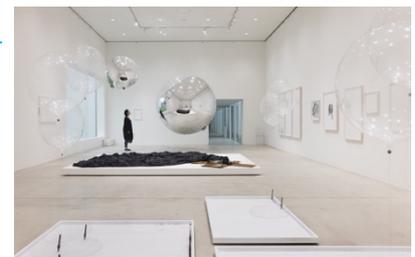


トマス・サラセーノ Tomás SARACENO



1973年トゥクマン(アルゼンチン)生まれ。ベルリン在住。芸術、生命科学、社会科学など様々な分野から着想を得て制作を行う。宙に浮く彫刻やコミュニティ・プロジェクト、鑑賞者が内部で過ごすことができるインスタレーションを通じて、サステナブルな新しい生き方や、自然環境への向き合い方を鑑賞者に問いかける。近年の展覧会に、「Aria」（ストロツィ宮、フィレンツェ、イタリア、2020）、第58回ヴェネチア・ビエンナーレ(イタリア、2019)、「ON AIR」（パレ・ド・トーキョー、パリ、フランス、2018）がある。

© Alfred Weidinger, 2015



トマス・サラセーノ “Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展 第2期” 展示風景 2021年 撮影：小山田邦哉

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

【 通年展示作家 】

鈴木 康広 (すずき・やすひろ)



撮影：中川正子

アーティスト。1979年静岡県生まれ。身近なものに新鮮な切り口を与える作品によって、ものの見方や世界のとらえ方を問いかける活動を続けている。2014年に水戸芸術館、2017年、箱根 彫刻の森美術館(神奈川)にて個展を開催。瀬戸内国際芸術祭 2010に出展した《ファスナーの船》は、2018年には隅田川を航行し話題に。2011年、第4回モスクワビエンナーレ(ロシア)出展。第1回ロンドン・デザイン・ビエンナーレ 2016(イギリス) 日本代表。2014 毎日デザイン賞受賞。武蔵野美術大学教授、東京大学先端科学技術研究センター客員研究員。

鈴木 康広《はじまりの果実》2020年
"Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展" 展示風景
撮影：小山田邦哉

目 [mé]



撮影：津島岳央

2013年活動を始める。アーティスト 荒神明香、ディレクター 南川憲二、インストーラー 増井宏文を中心とする現代アートチーム。個々の技術や適性を活かすチーム・クリエイションのもと、特定の手法やジャンルにこだわらず展示空間や観客を含めた状況/導線を重視し、果てしなく不確かな現実世界を私たちの実感に引き寄せようとする作品を展開している。主な作品に《たよりない現実、この世界の在りか》(資生堂ギャラリー、東京、2014)、《Elemental detection》(さいたまトリエンナーレ、2016)などがある

目 [mé] 《space》2020年
"Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展" 展示風景
撮影：小山田邦哉

【パフォーマンス】

問題行動トリオ (野村 誠+佐久間 新+砂連尾 理)

2018年、香港の大型福祉施設に野村誠が3ヶ月レジデンスしていた際に訪問した旧知のダンサー佐久間新、砂連尾理と結成した。2019年、「ノムラとジャレオとサクマの問題行動ショー ヨソモノになるための練習曲」(豊中市立文化芸術センター、大坂)を開催。

野村 誠 (のむら・まこと)



作曲家/ピアニスト、1968年名古屋市生まれ。個展「Organic Vegetable」(アートスペース虹、京都)、グループ展に、「肌理と気配」(青森公立大学国際芸術センター青森、青森)、「Archway Sound Symposium」(Five Years Gallery、ロンドン)、「野村誠の音楽室」(広島市現代美術館、広島)、「Notations 21」(Jeanie Tengelsen Gallery 他、アメリカ)など。現在、日本センチュリー交響楽団コミュニティプログラムディレクター。

佐久間 新 (さくま・しん)



ジャワ舞踊家、1968年大阪市生まれ。コラボ・即興・コミュニケーションに関わるプロジェクトを推進。からだに問いかけることとそこから生まれる言葉で話す「からだトーク」(大阪大学)、障がいのある人と新しいダンスを創る「ひるのダンス」(たんぼぼの家、奈良)等。共著に「ソーシャル・アート障がいのある人とアートで社会を変える」(文芸出版)。

砂連尾 理 (じゃれお・おさむ)



撮影：三浦博之

振付家/ダンサー、1965年大阪市生まれ。1991年寺田みさことダンスユニットを結成。近年はソロ活動を中心に、障がい者や高齢者、避難所生活者などとのプロジェクトも手がけ、アートと社会を繋ぐ活動を展開している。著書に「老人ホームで生まれたくとつとつダンス>ダンスのような、介護のような」(晶文社)。立教大学映像身体学科特任教授。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報：大谷(おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

イベント：アーティスト・トーク 水尻 自子、青木 千絵

日にち：2022年1月22日（土）

時間：13:00 - 14:30 / 会場：十和田市現代美術館 企画展示室 / 料金：無料※要企画展チケット

登壇：青木 千絵、水尻 自子

パフォーマンス：問題行動トリオ

2期では、十和田の人々とまちなかに飛び出しパフォーマンスを行った問題行動トリオ。第3期では、雪景色の美術館で作品と“インタープレイ”します。また6日(日)は、野村誠が2019年に行った「十和田のまちのピアノをめぐる ちいさなツアー」で生まれた曲などを演奏し、佐久間新と砂連尾理がダンスで応答します。そこにいない存在や、遠くにいる人とともにあることを作り出そうとする問題行動トリオの試みをご覧ください。

日にち：2022年2月5日（土）、6日（日） / 時間：14:00 - 15:00

会場：5日 十和田市現代美術館、6日 十和田市民文化センター

料金：無料 ※要企画展チケット

※上記の他にも、会期中にパブリックプログラムを予定しています。詳細は後日発表します。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、日程や実施内容が変更となる場合があります。



問題行動トリオ《三本木散歩》2021年
 “Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展”
 撮影：小山田邦哉

【 開催概要 】

展覧会名： Arts Towada 十周年記念「インター + プレイ」展 第3期

会 期： 2022年1月22日（土） - 5月29日（日）

開館時間： 9:00 - 17:00（最終入場 16:30）※最新の情報はwebサイトをご確認ください。

休 館 日： 月曜日（祝日の場合はその翌日）

会 場： 十和田市現代美術館

観 覧 料： 企画展個別料金 一般 800円。団体（20名以上）100円引き。高校生以下無料。

主 催： 十和田市現代美術館

後 援： アルゼンチン共和国大使館、東奥日報社、デーリー東北新聞社、青森放送、青森テレビ、青森朝日放送、十和田市教育委員会

キュレーター： 金澤 韻、鷺田 めるる

アシスタントキュレーター： 見留 さやか、中川 千恵子、里村 真理、外山 有菜

**Arts Towada とは**

十和田市ではより魅力的で美しい官庁街通りの景観を作り出すとともに、未来へ向けた新しいまちづくりの一環として「Arts Towada」計画に取り組んできた。この計画は官庁街通りという屋外空間を舞台に、通り全体を一つの美術館に見立て、多様なアート作品を展開していくという世界でもまれな試みである。アート作品に加え、十和田市の歴史や美しい自然、そして地域のもつ活力を引き出し未来へつなげていくような仕掛けを随所に盛り込むことで、十和田市を個性あふれる『アートの街』『感動創造都市』として国内外の多くの人々に印象づけることを目指す。その中核施設となる十和田市現代美術館が2008年度に開館、引き続いて美術館向かい側の跡地の整備およびシンボルアートの設置を行い、Arts Towadaは2010年春に完成。

十和田市現代美術館

2008年に東北初の現代美術館として開館。草間彌生、奈良美智、塩田千春、ロン・ミュエクなど世界の第一線で活躍するアーティストらの作品を常設展示。美術館の中だけでなく、周辺には公園のようなアート広場があり、子どもから大人まで散策しながら魅力あるアートとのふれあいを楽しむことができる。

所在地：青森県十和田市西二番町 10-9

TEL：0176-20-1127 FAX：0176-20-1138 web：www.towadaartcenter.com

**お問い合わせ**

十和田市現代美術館 広報：大谷（おおたに）

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com

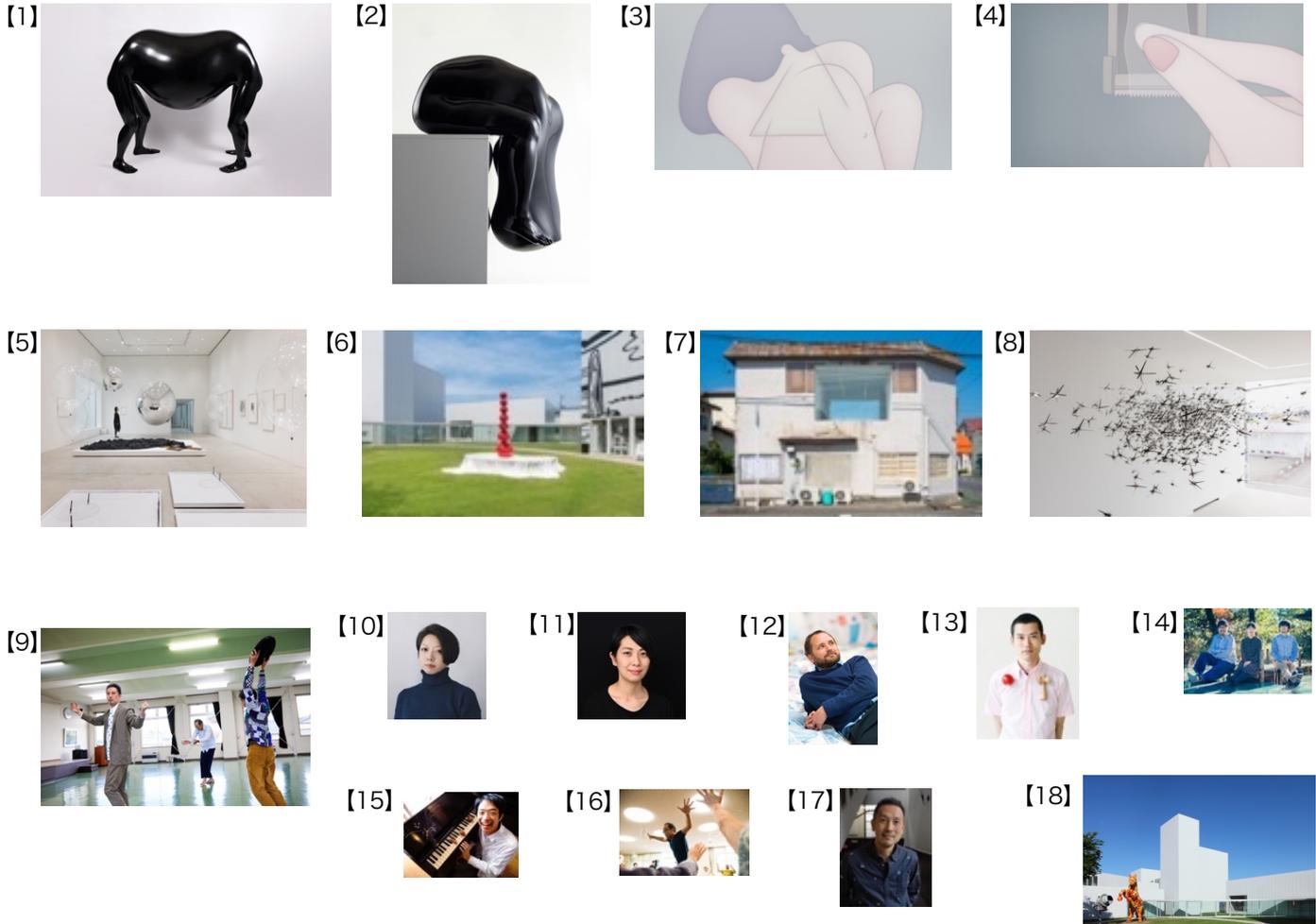
【 広報用図版 】

ご希望画像の作品番号にチェックを入れ、申込みフォームの項目をご記入の上、本用紙を FAX または E-mail にてお送りください。

FAX : 0176-20-1138 / E-mail : press@towadaartcenter.com

TEL : 0176-20-1127 / 住所 : 034-0082 青森県十和田市西二番町 10-9

十和田市現代美術館 広報 大谷 行



媒体名 _____
 媒体ジャンル 新聞/雑誌/美術誌/テレビ/WEB/その他 (_____)
 御社名 _____
 御担当者名 _____
 所在地 〒 _____
 電話 _____
 メールアドレス _____

【 画像ご使用に際して 】

- クレジットは全て明記してください。
- トリミングはご遠慮ください。
- キャプション等の文字が画像に被らないよう、レイアウトにご配慮ください。
- ご掲載の際は恐れ入りますが校正の段階で美術館までご確認ください。

お問い合わせ

十和田市現代美術館 広報 : 大谷 (おおたに)

Tel. 0176-20-1127 Fax. 0176-20-1138 press@towadaartcenter.com www.towadaartcenter.com